

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>1 生活保護の適切な実施を（30分）</p> <p>本年9月、池袋の公園で行われた生活困窮者支援団体の炊き出しについての報道を目にしました。炊き出しや生活相談に集まった人は、昨年は200人台、今年に入って300人台が続き、9月25日には400人を超えています。</p> <p>2008年末の年越し派遣村の記憶もまだ薄れていませんが、コロナ下で20～30代が増えていること、女性の姿があること、そして、生活保護を受けているのに障害の加算分が減り、生活が苦しくなったという方もいました。</p> <p>厚生労働省の集計によれば、自治体の「自立相談支援機関」での2020年度の新規相談件数が約79万件に上ることがわかりました。2019年度と比べると約3倍となっています。</p> <p>生活保護の基準について検証・検討する目的の「厚生労働省社会保障審議会生活保護基準部会」が、約3年の空白を経て2021年4月から再開しています。このことも新型コロナウイルス感染症の影響ではないかと推察しました。</p> <p>立命館大学産業社会学部の桜井啓太准教授は「コロナ禍でも生活保護の受給者数はまったく増えていない。これは人々にとって利用しづらい制度であることを示している。」と制度の課題について述べています。</p> <p>また、認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやいは包括的な政策提言「生活保護制度の改善および適正な実施に関する要望書」を厚生労働省に提出しています。</p> <p>コロナ禍でも生活保護の受給者数が増えていないことへの疑問を感じ、鶴ヶ島の現状を伺います。</p> <p>(1) 生活保護の申請件数と保護率について (2) 生活保護対応（福祉事務所）体制の強化について (3) 生活保護に関する広報・啓発について (4) 外国人の保護について (5) 多種多様な人たちへの適切な対応について</p>	市長

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>2 学校に行くことが楽しいと思えるために（30分）</p> <p>本年10月13日付けで発表された文部科学省の「令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」によれば、小・中学校における不登校児童生徒数は196,127人、在籍児童・生徒の2.0%となっています。</p> <p>「新型コロナウイルスの感染回避」により30日以上登校しなかった児童・生徒数も調査し、長期欠席の理由を追加しています。</p> <p>緊急事態宣言下での一斉休校や分散登校、行事の中止など日常生活の変化が、子どもたちに大きく影響していることを感じます。</p> <p>また、文部科学省の全国学力・学習状況調査と一緒に行われた今年度の質問紙調査（アンケート）で、将来の夢や目標を持っている子どもの割合が減っていることも気になります。小学校6年生では、学校が楽しいと思っている児童の割合が半分以下に下がっています。</p> <p>コロナ下でなかなか生活のリズムがつかめない、学校でも友達との関わりにおいて表情が見えないマスク、3密を避けてソーシャルディスタンスでと制限があり、気持ちが沈みがちになっていることが背景に挙げられています。</p> <p>第3期鶴ヶ島市教育振興基本計画の冒頭で「社会に開かれた教育課程」とは、学校と地域が一体となって、社会総がかりで子どもに「生きる力」を育てること」と教育長が語られています。</p> <p>鶴ヶ島の子どもたちにも「あきらめ感」や「無力感」が醸成されているのであれば、学校だけで抱え込まずに市全体で考えていくべきだとの思いから質問いたします。</p> <p>(1) 調査結果とアンケートにおける当市の児童・生徒の状況について ア 新型コロナウイルス感染症の影響で欠席する場合の対応は。 イ アンケートから見えてくる児童・生徒の精神衛生上の課題は。</p> <p>(2) これからの特別活動の在り方は。</p> <p>(3) ICTを活用した学習指導について ア オンライン授業の指導要録上の位置づけは。 イ やむを得ず登校できない児童・生徒への対応は。</p> <p>(4) 学校における新型コロナウイルス感染症への対応について ア 感染予防対策の現状は。 イ 抗原検査の実施体制は。</p>	<p>市長 教育委員会教育長</p>